



おはなしの

マッチ箱



私達は、おはなしのろうそくに
火をともし マッチです。

この箱が、さまざまな花を放つ
マッチで いっぱいになるように。
心をこめて送ります。

1月のストーリーテリング勉強会

2013年1月8日(水) 午前9:30~12:00

主催: 高知県立図書館 参加者: 11人

場所: 高知県立図書館 児童図書研究室(子ども読書室奥)

次回の勉強会は

2月12日(水)

午前9:30~12:00

場所: 当館児童図書研究室

(子ども読書室奥)

1. 赤ずきん

12分

『子どもに語るグリムの昔話5』(佐々梨代子 野村法/訳 こぐま社/発行) より

【語り手から】

小さな子どもに語れるお話を覚えたいと思い、挑戦しました。まだまだ全体の流れを作りきれていないので、もっと練習しなければ、と思いました。

2. 北風に会いにいった少年

10分

『おはなしのろうそく 13』(東京子ども図書館/編・発行) より

【語り手から】

本番までにもう少し煮つめてみます。

3. おそばのくきはなぜあかい

6分

『おそばのくきはなぜあかい(岩波の子どもの本8)』(石井 桃子/文 初山 滋/え 岩波書店/発行) より

【語り手から】

まだまだ途中です。もっとじゅくせいさせたい。

4. 鳥になりたかったこぐまの話

15分

『おはなしのろうそく 23』(東京子ども図書館/編・発行) より

【語り手から】

繰り返しのあるお話は、特にクライマックスを大事にし、後半は聞く側を飽きさせないように、だれてしまわないようにリズムカルにテンポ良く語る事が大切、とアドバイスを頂きました。

また、何度も、何度も、同じお話を語る事により、味が出て「お話を自分のものにしていく」ということが、今回大変勉強になりました。子ども達にも、同じお話であっても繰り返し語っていくことも、大切なことであると気付くことができました。

5. ヘドレイのベココ

9分

『イギリスとアイルランドの昔話』(石井桃子/編・訳 福音館書店/発行) より

【語り手から】

まだ覚えてで、余裕なく語ってしまいました。聞く年令によって、楽しみ方が少しちがってくるかもしれませんが、これから子どもの反応を見ながら語り方を整えていきたいと思ひます。

6. 金色の馬

11分

『高知県の昔話と伝説』(富川光男/共編 市原麟一郎/共編 土佐民話の会/発行) より

【語り手から】

ずっと以前に覚えかけた話で、やっと子ども達に語れるようになったかなと思っています。これから12月~1月の学校訪問で使いたいと思ひます。

7. 豆こじろう

9分

『日本のむかしばなし』(瀬田貞二/文 瀬川康男/絵 梶山俊夫/絵 のら書店/発行) より

【語り手から】

日本の昔話の中では、リズム感があって語りやすいと思ひました。出てくる語句の中で気になる言葉がありますが――

新年あけましておめでとうございませう。昨年に引き続き、今年もよろしくお願ひいたします。

年が明けて、寒い日が続いています。子ども読書室に来るおさんはすっかり冬の装いになって、もこもこしたしっぽやまんまるい耳がついた上着を着ているのをよく見かけます。これからまだまだ寒くなるようですが、元気に過ごしてもらいたいです。